

2019 年度の講義概要のデータベースを検索します。

[カリキュラムツリーへのリンク](#)

学部・研究科 Faculty/Graduate School	政策/外	時間割コード Course Code	86454
科目名 Course title サブテーマ Subtitle	アジア経済論	授業形態/単位 Term/Credits クラス Class	秋/2
担任者名 Instructor	後藤健太	曜限 Day/Period	火3

授業概要 Course Description 到達目標 Course Objectives	授業方法 / Teaching Methods
	講義
	言語 / Language 日本語(Japanese)
	授業概要 / Course Description 本講義は、21 世紀のアジア経済のダイナミズムを理解することを主要な目的としている。 第二次世界大戦後、貧困と停滞で語られていたアジアは、1970年代以降、地域として工業化と対外開放を進め、「アジアの奇跡」と呼ばれた急速な経済成長を遂げた。日本を筆頭に始まった成長の波は、その後、NIEsと呼ばれる新興工業経済（香港、台湾、シンガポール、韓国）、ASEAN4（タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア）、中国やベトナム、そしてカンボジア、ミャンマー、ラオスへと広がってきた。1990年代までのアジア地域の経済発展は所得格差の拡大を伴わなかったとして国際的にも注目された。 ところが、2000年代に入り、グローバル化と情報通信技術の発展、そして中国経済の成長を背景に、アジア経済は量的にも質的にも大きな変化を見せ始めた。まず量的な変化として、アジアが「世界の工場」と呼ばれるような、世界の財やサービスの一大生産拠点となったことは、すでによく知られた事実である。また、質的な変化としては、アジアは消費地としても欧州を上回るほどの市場規模を持つようになり、世界からヒトやモノ、カネを集めるようにもなったことがある。さらに2010 年代に入ると、今度はアジアがイノベーションセンターとしての一面も見せ始めるようになり、グローバルな経済秩序のあり方を大きく変えようとしているかのようである。 つまり 21 世紀に入り、アジアはまさに世界の経済成長のけん引役となったのであり、今後もその役割はさらに大きくなると予想されている。こうしたアジア経済を理解することは、そこで暮らす私たちの今と将来を考える上で、ことのほか重要なのである。 各回の講義では、21世紀のアジアの発展ダイナミズムを捉えるために、今後キーとなるような視点を中心に据えて議論を展開する。具体的には、アジア経済の工業化メカニズムをはじめ、それが国境を超えた生産ネットワークを形成している実態も扱うが、近年注目されているアジアの人口移動、都市化や格差、さらにはインフォーマル経済、環境問題、そして開発援助についても考察を加える（扱うトピックスの詳細については授業計画参照）。
	到達目標 / Course Objectives ①知識・技能の観点 本講義は、おもに経済学的なツールや考え方を通じて、21 世紀のアジア経済を理解することを目的としている。 ②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 21世紀のアジアの時代が「競争と共生」のバランスの上に成り立つことを多角的な視点より理解し、そこで生きる私たちの未来について、自分なりの見取り図を、エビデンスと論理的な考察を通して描く能力を培うことを到達目標とする。 ③主体的な態度の観点 本講義では現在アジアで起こっている最新のトピックスも扱う予定であり、今後主体的にアジアの中で生きていくための素養が身につく。
授業計画 Course Content	授業計画 / Course Content 第1回 イントロ：「アジアの世紀」のアジア経済論（教科書の序章） 第2回 変貌するアジアー アジア経済はどう論じられてきたか？（第1章） 第3回 アジア化するアジアー アジアの経済統合の実態、成果と今後の課題（第2章） 第4回 中国が変えるアジアー 改革開放と経済大国・中国の登場（第3章） 第5回 生産するアジアー グローバルな分業ネットワークと地場企業の発展（第4章） 第6回 資本がめぐるアジアー 国際資本フローとアジア経済（第5章） 第7回 移動するアジアー 相互依存関係の深まりとともに加速するヒトの流れ（第6章） 第8回 革新するアジアー 所得国化と成長パターンの転換（第7章） 第9回 都市化するアジアー メガリージョン化する都市（第8章） 第10回 インフォーマル化するアジアー アジア経済のもう一つのダイナミズム（第9章） 第11回 老いてゆくアジアー 人口ボーナスから人口オーナスへ（第10章） 第12回 不平等化するアジアー 貧困から格差へ（第11章） 第13回 環境問題に向きあうアジア（第12章） 第14回 分かちあうアジアー 開発協力と相互依存（第13章） 第15回 到達度の確認（予定）
	授業時間外学習 / Expected work outside of class
	講義担当箇所の教科書の該当箇所を読んでおくこと。
	方法 / Grading Policies 定期試験を行わず、到達度の確認(筆記による学力確認)と平常成績で総合評価する。 小レポート 30%（授業内レポートを数回課す予定である）および到達度の確認 70%。 履修者数が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験（16週目）」に変更することがあります。 成績評価方法が変更になった場合は、インフォメーションシステム等で連絡します。
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies / Evaluation Criteria/ Assessment Policy	基準・評価 / Evaluation Criteria・Assessment Policy
	①知識・技能の観点：テスト ②思考力・判断力・表現力等の能力の観点：小レポート ③主体的な態度の観点：積極的な参加
教科書 Textbooks	遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太（編）『現代アジア経済論－「アジアの世紀」を学ぶ－』有斐閣 978-4-641-18442-8
参考書 References **蔵書検索へ** Kansai University Library Catalog	
フィードバックの方法 Feedback Method	

担任者への問合せ方法 Instructor Contact	
備考 Other Comments	